



森町立宮園小学校

学校だより

統合57年目

燦たり宮園

第7号

令和5年9月29日

9月28日（木） 会礼 学校長の話

2学期が始まって1か月がたちました。10月の運動会に向けて、練習も始まりました。2学期も、「考え、踏み出す子」「思いやる子」「たくましい子」に向かって、頑張ることの具体的な目標を立てて、新しい成長へと一歩ずつ踏み出すことができているでしょうか。

今日は、腰塚勇人（こしづかはやと）さんという人の話をします。腰塚さんが産まれた年は、校長先生と同じです。夢であった中学校の体育の先生となって、生徒たちと充実した日々を送っていた腰塚さんは、2002年、今から21年前にスキーの事故で首の骨を折って、全身が麻痺して動けなくなってしまいました。大手術によって命は取り留めましたが、「一生、寝たきりになるかもしれない」とお医者さんから告げられ、絶望感から一時は自殺まで考えたそうです。しかし、家族や生徒、医療スタッフなど、多くの人の心強い応援や看病に支えられてリハビリ訓練を頑張り、奇跡的な回復をみせて現場に復帰しました。

現在は、首の骨を折る大事故での全身麻痺による絶望の中で、自分の命と向き合った経験から、そのとき考え感じたことを「命の授業」として、「命の尊さ」「生きていることの素晴らしさ」など、熱いメッセージを全国各地で講演をしながら伝え続けています。

その中の言葉を紹介します。「命が大切、命を大切に、その言葉を何千、何万回言われるのと同じくらい『あなたが大切』 この言葉に命は喜び、生きる力が湧きました。」「楽しいとき、幸せなときばかりじゃない。辛いときだって、苦しく不安なときもある。『助けて』って言うといい。その言葉を待っている人は必ずいる。力になってくれる『ドリー夢メーカー』はいる。」

とても心に響いてきます。「あなたたち一人一人がかけがえのない存在であり、『あなたが大切』なんだ。」「あなたたちには必ず力になってくれる『ドリー夢メーカー』はいるのだ。」と、腰塚さん自身の経験から、一つ一つとても重みのある言葉で力強く訴えています。

そして、腰塚さんは、身体に障がいを残しながらも仕事に復帰したときに、「命の喜ぶ『5つの誓い』」として、自分で5つのことを決めたそうです。

- ・口は 人を励ます言葉や 感謝の言葉を言うために使おう
- ・目は 人のよいところを 見るために使おう
- ・耳は 人の言葉を 最後まで聴いてあげるために使おう
- ・手足は 人を助けるために使おう
- ・心は 人の痛みがわかるために使おう

腰塚さんは、「命の喜ぶ生き方をする」と決め、それを具体的に行動するために、この「5つの誓い」を自分と約束したそうです。

来週から10月です。新しい学年が始まって6ヶ月、1年の半分が終わります。1年の後半がスタートする折り返しの節目に当たり、「大切なあなた」の「命の喜ぶ生き方」をするために、口・目・耳・手足・心の使い方を考え、「思いやる子」を目指して、笑顔の花をたくさん咲かせていきましょう。



【美化活動】



9月9日（土）に、PTA美化活動（奉仕作業）が行われました。今回は2組の保護者の皆様に参加していただきました。小雨の中でのスタートとなりましたが、草刈りを中心に作業をしていただき、運動場や校舎の周りが、とてもきれいになりました。参加をしていただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

9月28日（木）会礼 児童代表の言葉

わたしが、運動会に向けてがんばりたいことは、3つあります。

1つ目は、ソーラン節です。今週から練習が始まりました。わたしは、今まで、見たことしかありませんでした。練習で、しっかり振り付けを覚えて、本番で間違えないように踊りたいです。

2つ目は、二人三脚です。二人三脚は、2人で協力してゴールまで息を合わせて走り切る競技です。わたしは、昼休みにペアの友達と練習をしています。友達と協力してがんばりたいです。

3つ目は、徒競走です。わたしは、徒競走で1位になったことがありません。去年は、コール前で気を抜いて一人に抜かされてしまいました。今年は、あのくやしい経験を忘れず、最後まで走り抜きたいです。

【北海道森町友好親善訪問報告】

（3年2組 山本 莉穂）

わたしたちは夏休みに、森町の小学生の代表として、北海道に行ってきました。この「静岡県の森町」とずっと仲良くしてくれている「北海道の森町」の小中学生と交流するためです。

北海道の森町は、ここから約1200kmの距離にある、海に面した自然豊かな町です。おもしろい形の山や大きな沼があり、たくさんの虫や動物がいました。今から、この交流会で学んだことを話します。

まずは、北海道の人々の暮らしについてです。

出発する前は、「北海道は涼しいだろうな」と思っていたのですが、実際には静岡県と同じように、気温が30℃を超えていました。風がある分、こちらよりは過ごしやすいですが、北海道の建物にはエアコンがついていないため、暑くても窓を開けることしかできません。しかし、外にはアブやハチなどの虫がとても多いので、窓を開けるときは周りをよく確認しないと刺されてしまいます。冬の北海道が大雪で大変なことは知っていましたが、夏も大変だということは初めて知りました。

暑さ対策はあまりない北海道ですが、寒い時期、特に雪への対策はたくさんされていました。例えば、道路にある信号機です。静岡県は左から赤、黄、青というように横に長く並んでいますが、北海道は上から赤、黄、青というように縦に長く並んでいます。これは、信号機の上に雪が積もらないようにするための工夫なのだそうです。

他にも、雪が積もって道路が見えなくなっても中央線が分かるように、道路の真ん中には看板が立てられています。北海道の人たちは、こうして雪が降る中でも安全に暮らすことができるよう頑張っています。

次に、食べ物についてです。わたしたちは、豚肉や牛肉、鶏肉を食べますが、北海道ではそれらの肉に加えて羊の肉もよく食べます。「ジンギスカン」といいます。わたしたちも食べましたが、おいしかったです。北海道は広い土地を生かして牛をたくさん育てているので、アイスクリームなどもとてもおいしいです。

わたしたちは、北海道森町の小学生、中学生と一緒にカレーを作ったり、カヌー体験やパークゴルフをしたり、キャンプファイヤーをしたりして、仲良くなりました。

来年は、今回わたしたちを案内してくれた子たちがこの森町にやってきます。アクティ森や小國神社、甘々娘や緑茶など、有名な場所やおいしいものを楽しんでほしいと思います。わたしたちの森町のよさをしっかりと伝えることができるようにがんばります。

【学校公開】

（5年1組 中川 十心

5年2組 大塚 希亜）



9月21日（木）は、学校公開日でした。保護者の皆様には3～5時間目の授業を参観していただきました。6年生は、5時間目に修学旅行の説明会を行いました。授業終了後には、PTA委員会も行われました。雨が降り、足下の悪い中でしたが、授業参観や修学旅行説明会、PTA委員会に御参加いただき、ありがとうございました。